

使い捨てプラスチックのない 社会への第一歩として、「大阪エコバッグ運動」を推進

- ◇ 「大阪エコバッグ運動」とは
急な買い物時も含めてレジ袋を使用することのないよう、
エコバッグを常に携帯する運動
- ◇ 「大阪エコバッグ運動」の推進
スーパーマーケットやコンビニエンスストア等、多くの事業者や
市民団体など、あらゆるステークホルダーと連携し、市民の意識
改革とライフスタイルの変革を目的とした啓発に取り組む。

◇ 具体的な取り組み内容

- ・吉本興業株式会社の大阪市24区住みます芸人による啓発
動画やポスターの作成
- ・啓発キャンペーンの実施
- ・大阪芸術大学並びに近畿大学の学生と連携ポスター作製


環境局YouTubeチャンネルで啓発動画放映中

<https://www.youtube.com/channel/UCZgoJptGaPEQnJSaV97qAJQ>



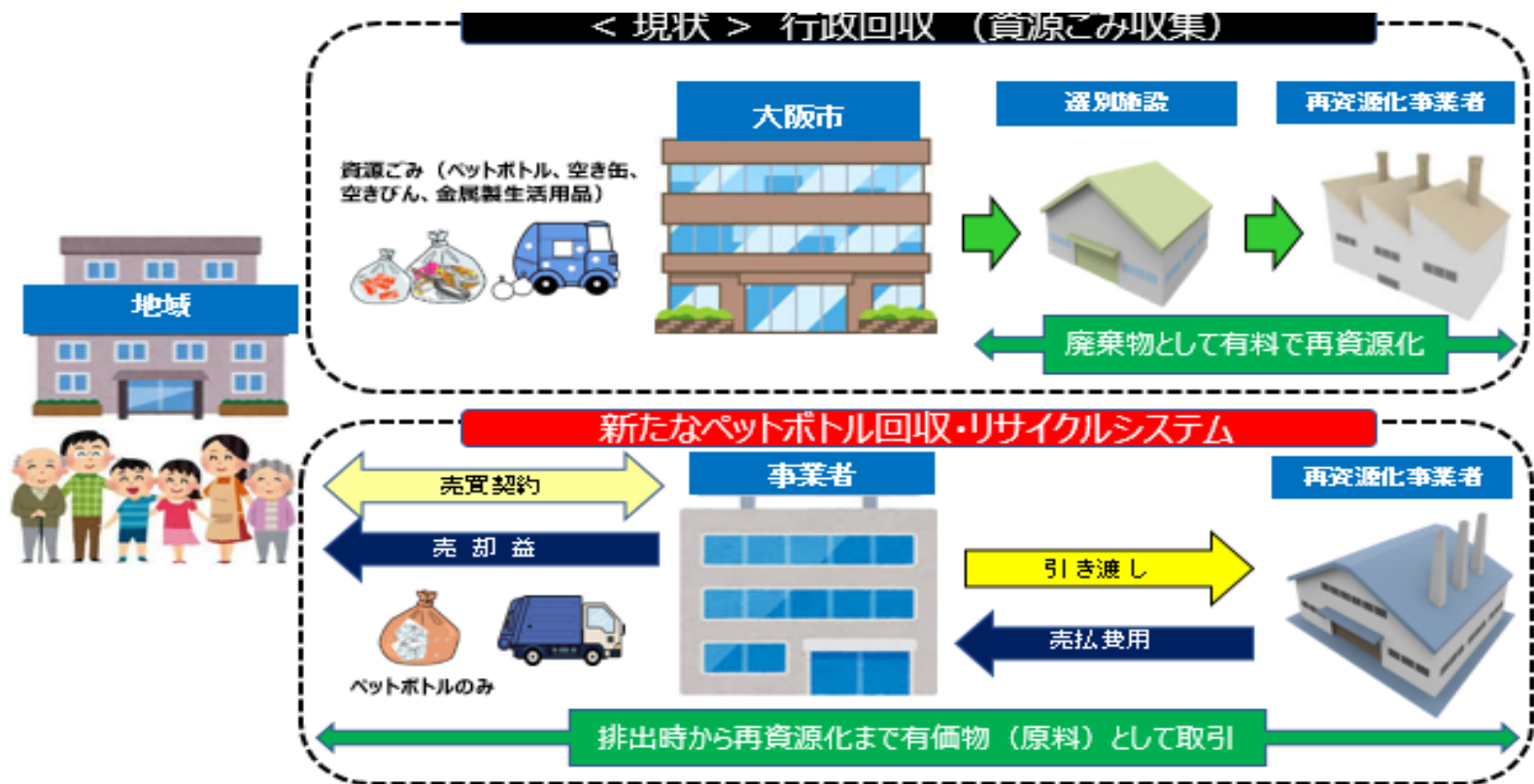
協力事業者・市民団体とレジ袋削減
に関する協定を締結（令和元年6月7日）



 エコバッグを使いましょう
おおさかプラスチックごみゼロ宣言

(参考) 新たなペットボトル回収・リサイクルシステム

- 現在、資源ごみ収集として行政回収している家庭から排出されるペットボトルを、地域コミュニティ（地域活動協議会・連合振興町会）と参画事業者が連携協働して回収します
- 分別の徹底により、質の高いペットボトルを回収することで、国内におけるマテリアルリサイクル（ボトルtoボトル等）を促進し、プラスチックの資源循環を推進します
- 分別に対する意識をより高めていくことで、さらなるごみの減量・リサイクルを推進します
- コミュニティビジネスの要素を取り入れることで、自律的な地域運営へ寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献します



※現行のコミュニティ回収との違い

- ① 行政回収 (資源ごみ収集) もあわせて継続
- ② 大阪市からの奨励金の支給はなし
- ③ 回収主体が事業者

(参考) 世界への発信



国連環境計画（UNEP）国際環境技術センター（IETC）と連携し、プラスチック資源循環など環境分野における大阪市の取組みを世界に発信

大阪市は、国連環境計画（UNEP）及び（公財）地球環境センターと連携し、「プラスチックごみ問題に関する国連環境計画シンポジウム～海洋プラスチックごみ削減をめざして～」を、2019年5月22日に開催しました。シンポジウムには、UNEPなどの国際機関、中央及び地方政府、民間企業、市民等250名以上が参加され、国内外のプラスチックごみの現状、課題や対応策の理解、海洋プラスチック汚染の防止等について議論しました。シンポジウムの最後には、今年6月に開催されたG20大阪サミット及び関係閣僚会合に向けて、UNEPからG20議長国の日本政府にメッセージを伝達するとともに、シンポジウムの結果を世界に発信しました。